

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2					
年組	1年1組		教科書(発行所)	現代の国語(数研出版)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能		思考・判断・表現					
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	「読む」と「書く」 「書けない日々」	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。	○							学習の目標
5	社会と文化 「水の東西」	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え要旨や要点を把握することができる。	○							授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
	新しい視点 「わらしべ長者」の経済学	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。	○							
6	ことばの働き 「ものことば」 「知識のシステムをつくる」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○							
7	環境と化学 「動物園というメディア」	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。		○			○			
8	人間と時間 「時間と自由の関係について」	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めることができる。		○						
9	認識の枠組み 「浪費を妨げる社会」	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語彙を磨き語彙を豊かにすることができる。	○							
10	問題を提起する 「感情暴走社会の由来」	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	○							
11	対比する 「デジタルメディア時代の複製」	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。		○						
12	賛否を述べる 「命は誰のものなのか」	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○							
1	解釈を述べる 「事実なのか考えなのか」	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。	○							
2	意見を述べる 「無痛化する社会のゆくえ」	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。								
3										
評価の観点										
12	賛否を述べる 「命は誰のものなのか」	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○							【知識・技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評価の方法										
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										
1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析										

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2						
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	現代の国語(数研出版)							
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目		
			知識・技能		思考・判断・表現		言語	話し		書く	読む
言葉	情報	言語	話し	書く	読む						
4	「読む」と「書く」 「書けない日々」	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。	○								学習の目標
5	社会と文化 「水の東西」	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え要旨や要点を把握することができる。	○								授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
	新しい視点 「わらしべ長者」の経済学	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。	○								
6	ことばの働き 「ものことば」 「知識のシステムをつくる」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○								
7											
7	環境と化学 「動物園というメディア」	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。		○			○				
8	人間と時間 「時間と自由の関係について」	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めることができる。			○						
9	認識の枠組み 「浪費を妨げる社会」	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○								
10	問題を提起する 「感情暴走社会の由来」	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	○								
11	対比する 「デジタルメディア時代の複製」	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。		○							
12											
12	賛否を述べる 「命は誰のものなのか」	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○								評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
1	解釈を述べる 「事実なのか考えなのか」	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。	○								
2	意見を述べる 「無痛化する社会のゆくえ」	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。									
3											
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析	

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2					
年組	1年1組		教科書(発行所)	新編 言語文化(数研出版株式会社)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能		思考・判断・表現					
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	地域の「ことば」 とんかつ	作品の内容を踏まえ、登場人物のその後の行動を想像して話し合う。	◎			○		○	学習の目標	
5	言語文化と古文 古文に親しもう	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	○		◎			○	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
	訓読の決まり 格言	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。		○	◎			○		
6	近代小説(一) 「羅生門」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	◎				○	○	授業の進め方	
7									1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の方法について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め発展させる。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理し資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。	
7	古文の世界を楽しむ 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	積極的に兄と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとする。				◎	○	○	学習の方法	
8	故事と成語 「助長」「虎の威を借る狐」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○		◎			○		
9	詩歌を味わう 「六月」「サーカス」	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	◎				○	○	1 論理的文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書などに編集したりする。	
10	現代にも生きる教え 『徒然草』	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。	○		◎			○		
11	和歌が作り出す世界 『万葉集』『古今和歌集』 故事と成語 「管鮑の交わり」	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。	○		◎			○	評価の観点	
12									【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	
12	語感を磨く 「側転と三夏」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○		○			◎	【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
1	昔と変わらない人の心 『伊勢物語』 「芥川」「筒井筒」	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。	○		◎		○	○	【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	
2	漢詩を味わう 中国の漢詩「春暁」 日本の漢詩「富士山」	作品中の表現をもとに、日本文化と中国文化の類似点・相違点を考察する。	○		◎			○	評価の方法	
3	論語のことば 『論語』	落語と、その素材になった漢文のそれぞれについて、あらかじめ調べてまとめる。				◎		○	1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析	
【備考】										
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	言語文化	単位数	3					
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	言語文化(数研出版株式会社)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点					項目		
			知識・技能		思考・判断・表現					
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	説話『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	○		◎			○		学習の目標 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
5	漢文入門 「入門一・二」	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。	○		◎			○		
6	近代小説(一) 「羅生門」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○					○◎		授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め発展させる。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理し資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
	6	説話『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」 故事	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。						○◎	
7	「漁夫の利」									
7	現代小説 「サラバ！」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○						◎	○
8	歌物語 「伊勢物語」	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	◎		○					○
9	故事 「矛盾」 「狐借虎威」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	◎		○					○
10	詩歌 「サーカス」 「I was born」	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	◎						○	○
	随筆(一) 「徒然草」	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	○		◎					○
11	史伝 「管鮑之交」	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。							◎	○
12										
12	近代小説(二) 「城の崎にて」	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○		○					◎
1	日記文学 「土佐日記」	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。							○	○
	軍記物語 「平家物語」	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。	○		◎					○
2	思想 「論語」「孟子」	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。							◎	○
	詩歌 「短歌」「俳句」	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	○						◎	○
3										
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2					
年組	2年1・2 組		教科書(発行所)	国語表現 (大修館書店)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能			思考・判断・表現				
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	1 言葉と出会う 言葉と表記 整った文を書く	主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、調った文を書くために大切なことを理解する。	○		◎			○		学習の目標 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
5	2 伝える、伝え合う 自己紹介ゲーム 絵や写真も見て書く	自己紹介のやりとりをとおして相互理解を図る。取り上げる内容や話し方を工夫して、わかりやすく自己紹介をする。	○			◎	○			
6	1 言葉と出会う 相手に応じた言葉遣い	話言葉と書き言葉の違いやその使い分けについて理解する。	◎				○	○		
	表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ	さまざまな言葉遊びをとおして、言葉に興味をもち、語彙を広げて、言語感覚を豊かにする。	○		○	○		◎		
7										
7	1 言葉と出会う わかりやすい文を書く	係り受けや文末表現、敬語について正しい理解をもち、その使い分けについて理解する。	◎				○	○		
8	3 小論文・レポート入門 小論文とは何か 反論文を想定して書く	小論文の基本的な書き方を理解する。意見を筋道を立てて書く。反論を想定して小論文を書くことの意味を理解する。	○	○	○			◎		
9									授業の進め方 1 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり、深めたりする。 2 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。 3 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写などを工夫して書く。 4 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。 5 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	
10	1 言葉と出会う 文のつなぎ方	接続表現の種類と働きを理解する。文脈による文のつながりを理解する。	◎				○	○		
11	表現を楽しむ 2 無人島で生き残れ	課題を解決するために、建設的に話し合う。積極的に話し合いに参加し、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を適切に述べる。	○	○			◎	○		
12										
12	5 メディアを駆使する 通信文をかき分ける 電話を使いこなす	情報が編集されていることを理解する。メディアごとの立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。	○	○				◎	○	学習の方法 1 実態に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて学ぶ。 2 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式などを学ぶ。 3 文や文章、語句、語彙及び文語の表現法などを言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割と関連づけて学ぶ。 4 思考力や想像力を伸ばしながら情報を活用して役立てる方法を学ぶ。
1	表現を楽しむ									
2	6 働く人にインタビュー	聞きたいことを明確にし、質問のしかたや話し方を工夫し、質問のしかたや話し方を工夫しながらインタビューする。聞き取ったことを整理し、効果的な伝え方を工夫して文章にまとめる	○				◎	○		
3										
【備考】		※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使用している。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2					
年組	2年 3・4組		教科書(発行所)	高等学校論理国語(第一学習社)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能		思考・判断・表現		書く	読む		
			言葉	情報	言語	話す				
4	評論(一)天然知能として生きる	筆者が定義する「天然知能」について把握し、これからの人間の知性のあり方について考えを深める。	○							学習の目標 (1) 実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。
5	評論(一) 自他の「間あい」	言い換えや比喩を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。	○					○		
6	評論(二)「私」中心の日本語	具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。	○					○		
6	評論(二)日本人の「自然」	筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的につかみ、筆者の問題意識や執筆意図に目を向ける。	○	○					○	
7										授業の進め方
7	読み比べーコミュニケーション対話の意味	コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。		○				○		
8	実用文(一)法にかかわる文章を読み比べる	二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。	○	○					○	1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 3 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 4 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
9	評論(三)手の変幻	筆者の完成や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。	○					○		
9	評論(三)越境する動物がもたらす贈り物	物語に描かれた人間と動物との関わりについて、筆者とそれを支える根拠の関係に着目して理解する。	○	○					○	
10	評論(四)働かないアリに意義がある	アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解す	○	○					○	学習の方法 1 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 2 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 3 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりする。
11	評論(四)AI時代の社会と法	AI(人工知能)の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。			○			○		
12	論理研究ー推論推論とは何か	推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。			○				○	
12	評論(五)なぜ多様性が必要か	動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。	○	○					○	評価の観点 a. 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 b. 思考・判断・表現 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉の効果的に使おうとしている。
1	評論(五)生体認証技術の発展とみらい	生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。			○			○		
2	評論(六)コミュニティ空間としての都市	情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。			○				○	
3	評論(六)「第二の身体」と捉えるメディアと技術	メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。	○						○	評価の方法
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										
1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析										

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2					
年組	2年2・3・4(文)組		教科書(発行所)	精選文学国語(三省堂)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目	
			知識・技能		思考・判断・表現					
			言葉	情報	言語	話す	書く	読む		
4	一小説の言葉・詩の言葉 夜中汽笛について、あるいは物語の効用について	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。物語の力について考える。	○						◎	学習の目標 (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に着けるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深める。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えたり深めたりすることができる。 (3) 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉をとおして他者や社会と関わろうとする。
5	二 小説(一) 少年という名前のメカ 山月記	短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞の仕方を学ぶ。小説を自分に引きつけて読み、人間に対する深い感受性を養う。	○					◎		
6	三 詩歌 今日 わたしを束ねないで	近代詩・現代詩の鑑賞の方法を学ぶ。想像力を豊かにする。	○					◎		
7										授業の進め方 1 文学的な文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 2 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。 3 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集し整理して表現する。 4 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。
7	木に花咲き 短歌十五首	それぞれの短歌に詠まれた情景や心情を理解する。	○						◎	学習の方法 1 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合う。 2 書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 3 表現するための文字の特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創造的な活動を行ったりする。
8	四 小説(二) ひよこの眼	回想形式に留意して、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考える。	○						◎	
9	神様	非現実的な設定をもつ小説の魅力について考える。	○						◎	
10	五 翻訳 ありときりぎりす	翻訳小説の魅力について考える。小説と参考文献を読み比べて、その共通と相違点を理解する。	○						◎	
11	八 評論 文学の仕事	人生の目的や意味を、自分に引き寄せて定義するために「文学の力」があることを理解する。	○						◎	
12										
12	七小説(三) こころ	小説を主体的に読解・鑑賞する姿勢を身につける。他者の体験や心情を自己の問題として捉え直し、人間の「生」の意味と意義を考える。	○						◎	評価の観点 【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
1										
2										
3	八 評論 お砂糖とスパイスと爆発的な何か	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。批評について理解を深める。	○						◎	評価の方法
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析				

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3							
年組	2年 3・4組文系		教科書(発行所)	高等学校精選古典探究(第一学習社)								
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目			
			知識・技能		思考・判断・表現		言語	話し		書く	読む	
			言葉	情報	言語	話し						
4	説話(一)『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」	著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。										学習の目標
5	故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。										(1)生涯にわたる見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。
6	随筆(一)『徒然草』 「よづつことは、月見るにこそ」「あだし野の露きゆるときなく」	争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通してものの見方や考え方を深める。										
7	故事・寓話 「嬰逆鱗」「知音」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。										
7	物語(一)『伊勢物語』 「初冠」「渚の院」	物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の信条とを読み味わう。										授業の進め方
8	古代の史話『十八史略』 「背水之陣」	史伝を読んで登場人物の言動を押さえ、韓信のとった作戦の巧みさを理解する。										1 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 3 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 4 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 5 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
9	物語(一)『大和物語』 「姨捨」	和歌のよまれた事情を語る、散文性や叙事性の強い歌物語を読んで、古典の世界の多様性を知る。										
10	漢詩の鑑賞 「独坐敬亭山」「送夏目漱石之伊予」	漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを深める。										学習の方法
11	随筆(二)『枕草子』 「野分のまたの日こそ」「二月つごもりごろに」	内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に現れたものの見方や考え方を理解する。										1 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告する。 2 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。 3 古典に現れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。 4 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。
12	名家の文章 「雑説」「売油翁」	本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩に込められた作者のものの考え方について理解を深める。										
12	物語(二)『源氏物語』 「光る君誕生」「若紫」	歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。										評価の観点
1	項羽と劉邦『史記』 「鴻門の会」	登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。										a. 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 b. 思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。
2	日記(一)『蜻蛉日記』 「うつろいたる菊」	女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。										
2	諸家の思想『孟子』『韓非子』 「性善」「侵官之害」	『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』、対立する法家の古典である『韓非子』を読み、古代中国思想について理解を深める。										
3	物語(三)『平家物語』 「能登殿の最期」	軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。										評価の方法
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。											1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析	

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2							
年組	2年 4組理系		教科書(発行所)	高等学校精選古典探究(第一学習社)								
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点						項目			
			知識・技能		思考・判断・表現		言語	話し		書く	読む	
			言葉	情報	言語	話し						
4	説話(一)『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」	著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。				○						学習の目標
5	故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。				○			○			(1)生涯にわたる見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。
6	随筆(一)『徒然草』 「よづつことは、月見るにこそ」「あだし野の露きゆるときなく」	争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通してものの見方や考え方を深める。				○		○				
6	故事・寓話 「嬰逆鱗」「知音」	現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。				○		○				
7												
授業の進め方												
7	物語(一)『伊勢物語』 「初冠」「渚の院」	物語の中で和歌が果たしている役割を押さえながら、場面と登場人物の信条とを読み味わう。				○		○				1 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2 古典を読んで、内容を構成や展開に即時的確にとらえる。 3 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 4 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 5 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
8	古代の史話『十八史略』 「背水之陣」	史伝を読んで登場人物の言動を押さえ、韓信のとった作戦の巧みさを理解する。				○		○				
9	物語(一)『大和物語』 「姨捨」	和歌のよまれた事情を語る、散文性や叙事性の強い歌物語を読んで、古典の世界の多様性を知る。				○		○				
10	漢詩の鑑賞 「独坐敬亭山」「送夏目漱石之伊予」	漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを深める。				○		○				
学習の方法												
10	随筆(二)『枕草子』 「野分のまたの日こそ」「二月つごもりごろに」	内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に現れたものの見方や考え方を理解する。				○		○				1 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告する。 2 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。 3 古典に現れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。 4 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。
11	名家の文章 「雑説」「売油翁」	本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩に込められた作者のものの考え方について理解を深める。				○		○				
12												
12	物語(二)『源氏物語』 「光る君誕生」「若紫」	歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。				○		○				評価の観点
1	項羽と劉邦『史記』 「鴻門の会」	登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。				○		○				a. 知識・技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 b. 思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c. 主体的に学習に取り組む態度 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。
	日記(一)『蜻蛉日記』 「うつろいたる菊」	女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。				○		○				
	2	諸家の思想『孟子』『韓非子』 「性善」「侵官之害」	『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』、対立する法家の古典である『韓非子』を読み、古代中国思想について理解を深める。				○		○			
3	物語(三)『平家物語』 「能登殿の最期」	軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。				○		○			評価の方法	
【備考】												
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。												
1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物等の確認 3 小テストや定期考査による分析												

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	4				
年組	3年 1組		教科書(発行所)	国語表現 改訂版(大修館書店)					
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点					項目	
			関	話・聞	書	読	知		
4	1 書いて伝える	主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、調った文を書くために大切なことを理解する。図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。	○		◎		○	学習の目標 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。	
5	2 小論文・レポート入門	小論文の基本的な書き方を理解する。原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。	○		◎		○		
6	3 自己PRと面接	経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。事実や出来事を踏まえて、効果的な自己PRをする。	○	◎		○	○		
7								授業の進め方 1 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり、深めたりする。 2 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。 3 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写などを工夫して書く。 4 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。 5 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合ったりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	
7		志望先について十分な情報を集める。調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結び付け、説得力のある志望動機を書く。	○	◎		○	○	学習の方法 1 実態に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて学ぶ。 2 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式などを学ぶ。 3 文や文章、語句、語彙及び文語の表現法などを言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割と関連づけて学ぶ。 4 思考力や想像力を伸ばしながら情報を活用して役立てる方法を学ぶ。	
8									
9	4 メディアを駆使する	様々な通信文の形式を理解する。相手に応じた適切な言葉遣いや対応の仕方を理解する。	○		◎		○		
10	5 声とコミュニケーション	聞くこと、話すこと、伝えあうことを見つめ直し、コミュニケーションについて新たな発見をする。	○	◎			○		
11	6 会話・議論・発表	場面に応じた言葉遣いを考える。ロールプレイで役割に応じて効果的な表現になるように工夫する。	○	◎			○		
12									
								評価の観点 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解	
12	7 表現を楽しむ	さまざまな言葉あそびを知り、面白さを味わい、言語文化に対する理解を深める。	○	○	◎		○		
1									
2								評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析	
3									
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。									

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2					
年組	3年 2組		教科書(発行所)	国語表現 改訂版(大修館書店)						
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点					項目		
			関	話・聞	書	読	知			
4	1 書いて伝える	主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、調った文を書くために大切なことを理解する。図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。	○		◎			学習の目標 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。		
5	2 小論文・レポート入門	小論文の基本的な書き方を理解する。原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。	○		◎					
6	3 自己PRと面接	経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。事実や出来事を踏まえて、効果的な自己PRをする。	○	◎	○					
7								授業の進め方 1 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり、深めたりする。 2 相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。 3 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写などを工夫して書く。 4 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。 5 様々な表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。		
7	4 メディアを駆使する	志望先について十分な情報をあつめる。調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結び付け、説得力のある志望動機を書く。様々な通信文の形式を理解する。相手に応じた適切な言葉遣いや対応の仕方を理解する。	○		◎					
8								学習の方法 1 実態に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて学ぶ。 2 発声や発音の仕方、話す速度、文章の形式などを学ぶ。 3 文や文章、語句、語彙及び文語の表現法などを言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割と関連づけて学ぶ。 4 思考力や想像力を伸ばしながら情報を活用して役立てる方法を学ぶ。		
9	5 声とコミュニケーション	聞くこと、話すこと、伝えあうことを見つめ直し、コミュニケーションについて新たな発見をする。	○	◎		○	○			
10	6 会話・議論・発表	場面に応じた言葉遣いを考える。ロールプレイングで役割に応じて効果的な表現になるように工夫する。	○	◎			○			
11								評価の観点 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解		
12	4 メディアを駆使する	さまざまな言葉あそびを知り、面白さを味わい、言語文化に対する理解を深める。	○	○	◎		○			
1								評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析		
2										
3										
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。										

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	現代文B	単位数	3				
年組	3年2・3組文系		教科書(発行所)	高等学校 改訂版 現代文B(第一学習社)					
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点					項目	
			関	話・聞	書	読	知		
4	評論(一) 「写真の持つ力」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。	○			◎	○	学習の目標 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。	
5	「未来世代への責任」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。	○			◎	○		
6	小説(一) 「檸檬」	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め、発表する。	○			◎	○	授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。	
	6	評論(二) 「言語が見せる世界」 「いのちのかたち」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。	○			◎		○
7	言語活動編 「意見文の書き方」	論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。	○	○	◎				
7	評論(三) 「身体の個性」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。	○			◎	○		
8	「目に見える制度と見えない制度」								
9	詩 「足と心」 「冬の日」	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、感想をまとめる。	○			◎	○		
10	小説(三) 「枯野抄」	文章を読んで、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。	○			◎	○	学習の方法 1 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合う。 2 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 3 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 4 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりする。	
11	評論(四) 「リスク社会とは何か」	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、感想をまとめる。	○	◎			○		
12	言語活動編 「研究発表のしかた」	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、感想をまとめる。	○	◎			○		
12	評論(五) 「現代日本の開花」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。	○			◎	○	評価の観点 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解	
1	『「である』ことと『する』こと』	文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。	○			◎	○		
2									
3								評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。									

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	現代文B	単位数	2				
年組	3年3組理系		教科書(発行所)	高等学校 改訂版 現代文B(第一学習社)					
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点					項目	
			関	話・聞	書	読	知		
4	評論(一) 「写真の持つ力」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。	○			◎	○	学習の目標 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。	
5	「未来世代への責任」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。	○			◎	○		
6	小説(一) 「檸檬」	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め、発表する。	○			◎	○	授業の進め方 1 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。 2 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わう。 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 4 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。 5 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てる。	
	6	評論(二) 「言語が見せる世界」 「いのちのかたち」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。	○			◎		○
7	言語活動編 「意見文の書き方」	論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。	○	○	◎				
7	評論(三) 「身体の個性」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。	○			◎	○		
8	「目に見える制度と見えない制度」								
9	詩 「足と心」 「冬の日」	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、感想をまとめる。	○			◎	○		
10	小説(三) 「枯野抄」	文章を読んで、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。	○			◎	○	学習の方法 1 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合う。 2 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書く。 3 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色を捉えて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。 4 文章を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりする。	
11	評論(四) 「リスク社会とは何か」	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、感想をまとめる。	○	◎			○		
12	言語活動編 「研究発表のしかた」	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、感想をまとめる。	○	◎			○		
12	評論(五) 「現代日本の開花」	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価する。	○			◎	○		
1	『「である』ことと『する』こと』	文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。	○			◎	○	評価の観点 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解	
2									
3									
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析	

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典A	単位数	2			
年組	3年 2組	教科書(発行所)	高等学校改訂版標準古典A(第一学習社)					
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点					項目
			関	読	書	読	知	
4	物語(二)『大鏡』 「延喜の帝」 「弓争い」	古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。	○			◎	○	学習の目標 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。 授業の進め方 1 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 3 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 4 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 5 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。 学習の方法 1 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告する。 2 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。 3 古典に現れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。 4 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。 評価の観点 1 関心・意欲・態度 4 読む能力 5 知識・理解 評価の方法 1 学習態度の観察、点検 2 学習態度や課題、提出物などの確認 3 小テストや定期考査による分析
5			○			◎	○	
6	漢詩の鑑賞 近体の詩 「鹿柴」「絶句」 「臨洞庭」	古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりする。	○			◎	○	
7								
7	随筆『枕草子』 「中納言参り給ひて」	古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。	○			◎	○	
8	日記『蜻蛉日記』 「泪坏の水」	当時のわが国での風習と、今と変わらない人としての情や教訓を理解する。	○			◎	○	
9	項羽と劉邦 「鴻門之会」 「四面楚歌」	中国史に描かれた社会背景や人物像を読み取り、人間、社会などについて考察していく。	○			◎	○	
10								
11								
12								
12	物語(三)『源氏物語』	古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりする。	○			◎	○	
1								
2								
3								
【備考】						※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。		

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	国語	科目	古典B	単位数	3			
年組	3年3組		教科書(発行所)	高等学校 改訂版 古典B(数研出版)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点					項目
			関	話・聞	書	読	知	
4	日記文学『蜻蛉日記』 「うつろひたる菊」	作者の心情を読み取り、主題を考える。	○			◎	○	学習の目標
	逸話 「梁上君子」 随筆『枕草子』 「鳥の空音」	有名な漢文の逸話を読み、漢文の世界への親しみを深めさせる。 登場人物間で交わされた手紙や会話のやり取りを理解し、その妙味を感じ取る。	○			◎	○	
5	小説 「売鬼」	幽霊と人間との性質についての対照的な描写を押さえながら、展開を把握させる。	○			◎	○	授業の進め方
	日記文学『紫式部日記』 同僚女房評	文脈を丁寧にたどり、本文を解釈する。	○			◎	○	
7	小説 「落雷裁判」	中国古典小説への興味を持たせる。	○			◎	○	1 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 3 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 4 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 5 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。
8	物語『源氏物語』 「須磨」	登場人物の気持ちの推移をたどる。	○			◎	○	
9	史伝「廉頗・藺相如」 「刎頸の交はり」 「璧を趙に返さしむ」	強大な秦に対抗する人たちの逸話を読み味わわせる。	○			◎	○	学習の方法
	歴史物語『大鏡』・『栄花物語』 「道真と時平」 「兼道と兼家」	敬語表現を中心に文法的な知識を活用して、人物関係の理解に生かせるようになる。	○			◎	○	
10	史伝「荆軻」	緊迫した場面で短文を連続させる修辭によって生じるリズムの良い文体を読み味わわせる。	○			◎	○	1 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告する。 2 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する。 3 古典に現れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。 4 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。
	11	評論『無名草子』 「文」	評論を読むことで、古人の文学作品の評価や考え方を学ばせ、自己の論理の構築に役立たせる。	○			◎	
12	文章「捕蛇者説」	時代背景を踏まえて筆者の主張を理解させる。	○			◎	○	評価の観点
12	評論『風姿花伝』 「秘すれば花」	本文の論理展開の仕方を確認する。	○			◎	○	
1								評価の方法
2								
3								
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								